



第87号

2011 / 5

内田百閒没後40年企画 百閒先生 おかでんの歩みを振り返る

5月列車～百閒がおかでんに書いたラブレター～

■1912年5月5日岡山駅前～後楽園前にて営業開始。6月1日城下～西大寺町間開業。

春光のせい、ぬるま湯のような空気に時折、岩清水のような冷たい風が折吹き抜ける。後楽園が1番華やぐこの5月に、生まれ年は違えども共に発車ベルが鳴り、それぞれの鉄道を走りだした我と君は、いうなれば「5月列車」である。

たくさんの乗客の乗せて轟轟と云う音を響き立て、岡山の街を颯爽と走りぬける君の姿に、私は恋心を抱いてしまったのだろう。同年の9月に私の結婚を控えているからか、君の存在を否定したいが為にその当時、「役には立たなかったが、しかし珍しいので…」と言ってしまった事をお許し願いたく思う。

■1921年7月26日に後楽園前～番町間開業。1923年7月9日西大寺町～東山間開業。

苦勞をしながらも延伸をしていく君の噂を聞くと、我に振り向いてほしいという気持ち一心に、「冥途」など六篇を春陽堂の文芸誌「新小説」に発表する事が出来た。また京橋を渡る時に烏城を少し覗き込むように見る君の流し目の艶やかさや、旭川水面に反射した煌めく太陽の光を、眩しそに遠慮気味に手を翳しながら走る君の姿は狂おしく、それを思い出す度に妄想だけが先走るといふ幸福な時間があったからこそ、我も関東大震災による苦難も乗り越える事ができたのである。

■1928年3月18日柳川～大雲寺前間開業。1946年9月6日大雲寺前～清輝橋間開業。

柳川から大雲寺前間は岡山城外濠の名残である下水溝が流れている事により開業に苦勞をしたと聞いた。そして室戸台風や岡

山大空襲という幾なる困難を乗り越え、君は戦争が終わって間もない頃に、清輝橋まで延伸をしたというではないか。美しさだけではなく、母親のような強さを持つ君に魅かれ、いつしか我は君の事ばかり思う毎日となっていた。

しかしいくら愛しく思っても君は公共のもの。自分だけのものにする事は出来ない事は頭の中では理解はしていた。その現実から逃避しようとその頃、我は岡山で下車をする事のない阿房列車を、まるで広野を突っ走る蒸気機関車のごとくに運転した。今から思うと阿房列車は用事のない旅である事に偽りは無いが、君の事を忘れる為の旅だったのだ。

■1968年5月31日城下～番町間廃止。1980年開業70周年を記念して軽快電車登場。

君は自らの命を守る為に番町線を手放した。我がお気に入りの古き良き岡山の街並みを走る君の姿をもう見る事は出来ない。君を恨んでいるのではない。その頃全国では車社会への移行により、世論が路面電車の廃止への方向へと傾斜していったから仕方なかったのだ。我も運命という傾斜に従うように3年後の1971年4月20日にこの世と縁を切る時が来てしまった。その後も君は全国の路面電車ではクーラー車がほとんど無い時代に、軽快電車デビューという形でそれを見事にやってのけた、美しくも凛然とし

た姿で走り続ける君に、私の心はいつしれず恋心や愛というものを超越した四無量心(慈・悲・喜・捨)となった。

■2002年7月5日超低床車両MOMO登場。2010年6月9日年創立100周年。

いつの間にかビルが競い合うように建っていく岡山の街。そのような今日でも君は、街並みや利用者を気遣い、架線のセンターポール化や停留所に運行状況を表示する電車ローケーションシステムの設置、バリアフリー化、屋根の取付けなどを進めると同時に超低床電車MOMOを登場させた。そしてその優しさは岡山だけに留まらず、廃止が決まった和歌山の南海貴志川線を和歌山電鐵設立により運行を引き継いだ。その後の活躍はいうまでもない。最期にひとつ約束をしよう。我と君との間にはサヨナラと云う終着駅はない。何故なら君はこれからもずっと皆に愛し続けられ、ずっと岡山の街を走り続けるからだ。我は君と出会えてよかった。ありがとう。

追伸:デジタルミュージアム5Fに鉄道模型を中心とした鉄道テーマ館及び百閒記念館を市民協力の下、設置する構想がある。諸君、是非ご協力いただければ嬉しい限りである。

安藤 亮



【百閒鉄道文化館】

岡山市デジタルミュージアム5Fロビーに倉敷チボリ公園で展示されていたジオラマを移設、その周りを鉄道模型が走ります。この他、岡山の町並みを模したLRT模型も展望室に展示。

岡山市デジタルミュージアムは岡山駅西口から東西連絡通路を通過してすぐそば。

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

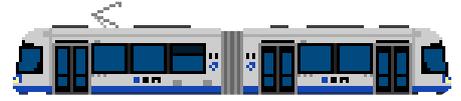
RACDA

検索

詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで

超低床バリアフリー路面電車MOMO 2号導入応援募金のお願い 東山線・清輝橋線に毎日車いす対応のMOMOを走らせよう 1万円で名前をMOMO 2号の車内に掲示

東日本大震災・ひたちなか海浜鉄道復旧支援募金



MOMOが導入されてから既に9年、地方の公共交通の環境は悪化し、規制緩和以来で大手バス会社28社が破綻しています。そこで今年は交通基本法が制定され、国の地方公共交通財源も194億円から305億円と増加する見通しです。しかし公共交通事業者は低床バス、低床路面電車を新規導入する余裕は全くなく、岡電として例外ではありません。不景気と少子化の影響で輸送人員は1日1万人を割り、運賃収入は3億円を切っています。そうした中で岡電では今年の創立100周年を記念して2編成目のMOMO導入を計画しています。しかし価格はなんと2億8000万円です。

2002年の導入では、RACDAは水戸岡鋭治さんにデザインをお願いし、500万円の募金を岡山市に寄付しました。1万円以上の寄付者200余名は車内に名前を永久掲示しています。寄付は全国から集まり、各地の超低床電車導入に大きなインパクトを与えました。（豊橋の低床電車導入では市民募金が約3500万円）MOMOと同型車は現在、高岡万葉線に6編成、富山ライトレールに7編成、富山環状線に3両編成が活躍していますが、これらはすべて市が中心となって導入を図っており、いわば公設民営だからこそ可能になったのです。（公営の熊本市は7編成、鹿児島市は13編成、岡山の姉妹都市サンノゼではMOMO導入の年、60編成が低床車に交換）

本格的高齢化時代を迎えて、岡山ではたった1編成のMOMOを東山線と清輝橋線に日替わり運行している状態ですが、2編成目の導入で週6日づつ車椅子対応の低床電車の運行が可能になります。さらにこのMOMO 2号は構想中の吉備線LRT化にも対応する性能を持っています。MOMOは約40年間岡山を走ります

【緊急追加支援】RACDA 高岡会員の吉田千秋さんは、高岡での実績を認められて茨木県のひたちなか海浜鉄道の社長に就任しました。経営立て直しによりやく光が見えてきた矢先、東日本大震災で甚大な被害を受け、復旧には3億円かかると思われます。まさに存続の危機です。そこで緊急にMOMO募金からも緊急支援を行いたいと思います。ご協力よろしくお祈りします。

募金はRACDAが取りまとめて寄付を行います。また1万円以上の寄付者の御芳名は車内プレートに永久に掲示させていただきます。お子様やお孫さんの記念、結婚の記念など意味を見つけて御寄附ください。導入迄に前回の500万円以上を目標に頑張りましょう。1000円募金や小口寄付の募金箱も設置します。

申し込み方法

郵便振替用紙に、MOMO応援募金と金額を書いてお振込ください。プレート掲示の氏名が複数の場合は、その由を書いてください。確認のため、葉書で領収書と掲示の御芳名をお送りします。

郵便振替 01340-8-54343 特定非営利活動法人公共の交通ラクダ

RACDA (NPO法人公共の交通ラクダ) 事務局

〒700-0823 岡山市丸の内1-1-15 TELFAX 086-232-5502 理事長090-3743-4778

http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ メール racda_okayama@ybb.ne.jp

